

## 「子ども手当て」をワクチンの費用に！

今月から民主党公約の1つである「子ども手当て」が支給されています。皆さんはどのように使う予定でしょうか？

内閣府の調査では、

- 子どものための貯蓄：43.4%
- 生活費に補てん：11.4%
- 保育費：10.8%
- 習い事：9.8%
- 学校教育費：8.7%
- 学校外教育費：8.6%
- 子どもと限定しない貯蓄：4.8%
- 家族の遊興費：1.8%

でした。

厚労省による「子ども手当て」の目的は、以下のように書いてあります。「子ども手当ては、時代を担う子どもの育ちを社会全体で応援するという観点から実施するものです。子ども手当ての創設の背景としては、少子化が進展する中で、安心して子育てをできる環境を整備することが喫緊の課題となっていることがあります。特に子育て世帯からは、子育てや教育にお金がかかるので、経済面での支援を求める声が強いという状況にあります。こうした状況を踏まえ、子ども手当てについては、子育てを未来への投資として、次代を担う子どもの健やかな育ちを個人の問題とするのではなく、社会全体で応援するという観点から実施するものであり、子どもを安心して生み育てることができる社会の構築に向けた大きな第一歩であると考えています。」

その主旨は素晴らしいのですが、「選挙の

ためのお金のばらまき」「子どものために使われないのでは？」「財源は？消費税率のアップ！」という疑問も多々あります。そこで小児科医としては、「子ども手当ての一部を任意ワクチン接種の費用に」という呼びかけをしています。

ワクチンは個人を病気から守るだけでなく、社会的にも集団防衛の意義があります。最近、水痘（みずぼうそう）やムンプス（おたふくかぜ）が流行していますが、「水痘ワクチン」や「おたふくかぜワクチン」の存在さえ知らない親御さんや知っていても有料なので高くて敬遠している親御さんがいるのも現実です。

また、罹患する人は少ないのですが、感染した場合には重篤になる細菌性髄膜炎の起因菌第1位の「ヒブ（インフルエンザ菌）」や第2位の「肺炎球菌に対するワクチン」をうける子どもたちも徐々に増えてきました。がんの予防となる「子宮頸がんワクチン」も導入されていますが、いずれも有料で費用が高いのがネックです。

外国ではほとんどのワクチンが、定期予防接種として公費負担で実施されています。日本でも子ども手当ての一部をワクチン接種の費用に当てる政策で、個人負担を少なくし広く普及してもらいたいと願っているのです。



(たまなは)